

基本情報

指標番号

2195

名称

外来で睡眠薬を処方された 75 歳以上の症例の中で、ベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬が処方されていない割合

分母

外来で経口睡眠薬を処方された 75 歳以上の人月

分子

分母のうち、外来でベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬処方がされていない人月

指標群

精神科

意義

高齢者に対しベンゾジアゼピン系およびバルビツール系睡眠薬は副作用が出やすく、使用を控えるよう記載されている。

年度

2018,2020,2022,2024

必要データセット

外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口睡眠薬（下記コード）の含まれる処方が 75 歳以上で実施された人月を算出する。年齢は EF-3（生年月日）と EF-24（実施年月日）を用いる。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124001	エスタゾラム	○	○	○	○
1124002	フルラゼパム塩酸塩	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○
1124004	ニメタゼパム				
1124005	ハロキサゾラム	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○
1124009	ブロチゾラム	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124010	ロルメタゼパム	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	○	○	○	○
1125001	アモバルビタール	○	○	○	○
1125002	バルビタール	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125006	ペントバルビタールカルシウム	○	○	○	○
1129006	リルマザホン塩酸塩水和物	○	○	○	○
1129007	ゾピクロン	○	○	○	○
1129009	ゾルピデム酒石酸塩	○	○	○	○
1129010	エスゾピクロン	○	○	○	○
1190016	ラメルテオン	○	○	○	○
1190023	スボレキサント	○	○	○	○
1190027	レンボレキサント		○	○	○

分子の定義

1. 分母のうち、外来 EF ファイルより、経口ベンゾジアゼピン系睡眠薬またはバルビツール系睡眠薬（下記薬価基準コード）の含まれる処方されていない人月を算出する（75 歳以上：年齢は EF-3（生年月日）と EF-24（実施年月日）を用いる）。

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124001	エスタゾラム	○	○	○	○
1124002	フルラゼパム塩酸塩	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	○	○	○	○
1124004	ニメタゼパム				
1124005	ハロキサゾラム	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	2018	2020	2022	2024
1124009	プロチゾラム	○	○	○	○
1124010	ロルメタゼパム	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	○	○	○	○
1125001	アモバルビタール	○	○	○	○
1125002	バルビタール	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	○	○	○	○
1125006	ペントバルビタールカルシウム	○	○	○	○
1129006	リルマザホン塩酸塩水和物	○	○	○	○
1129007	ゾピクロン	○	○	○	○
1129009	ゾルピデム酒石酸塩	○	○	○	○
1129010	エスゾピクロン	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 では高齢者に対しベンゾジアゼピン系は認知機能低下、転倒・骨折、日中の倦怠感などのリスクがあるので可能な限り使用を控えることとされている。かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドラインではベンゾジアゼピンはせん妄を惹起することがあり、75 歳以上にベンゾジアゼピンは推奨しないとされている。
2. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 でバルビツール系薬剤はふらつきなどの副作用が出やすく、また中止によってけいれんなどの離脱症状が誘発されやすいため現在ほとんど使用されず、使用を控えるべき薬剤にも挙げられている。

3. ゾピクロン、ゾルピデム、エスゾピクロンは非ベンゾジアゼピン系睡眠薬に分類されるが、ベンゾジアゼピン系と機序が類似し転倒・骨折のリスクが報告されており、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 において非ベンゾジアゼピン系睡眠薬についても特に慎重に投与すべき薬剤に挙げられていることから本指標の対象に含めた。

参考資料

1. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015
https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20170808_01.pdf （2024 年 6 月 11 日アクセス可能）
2. かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第 2 版）
0000140619.pdf (mhlw.go.jp) （2024 年 6 月 11 日アクセス可能）